

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究 (B)  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18320079  
 研究課題名 (和文) 社会的・文化的要素を意識した多元・多層日本語学習支援システムの研究  
 研究課題名 (英文) Research on Polyphyletic Multimedia System for Japanese Language Learning  
 研究代表者  
 才田 いずみ (SAITA IZUMI)  
 東北大学・大学院文学研究科・教授  
 研究者番号：20186919

研究成果の概要：文字・音声・映像等の多様な媒体を活用し、学習者が日本語を使う際に必ず必要になる言葉や表現の、場面や社会関係に応じた使い方についての情報や知識が得られるように配慮した教材を開発・作成した。特に、システムエンジニアを対象に顧客対応を学ぶウェブ教材については、通常の試用評価だけでなく、テレビ会議による学習者同士の遠隔協同学習についても試用実験を行い、その可能性と本格稼働への問題点を洗い出すことができた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2007 年度	7,800,000	2,340,000	10,140,000
2008 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
年度			
総計	15,300,000	4,590,000	19,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本語教育

キーワード：日本語教育・教材・遠隔日本語学習・社会文化能力・中間言語語用論・自律学習・談話構成力

## 1. 研究開始当初の背景

国際交流基金 (2004) によれば、地球上の日本語学習者の数は増加しており、2003 年には 127 の国と地域に 235 万人を超える日本語学習者が存在する、という。通常、日本語学習者数は、学習段階が進むにつれて減少するのが普通であるので、この 235 万という数字の背後には、日本語学習を中止あるいは休止した膨大な数の「元学習者」が存在していると推定される。

こうした人々の中には、適切な機会や環境

があれば日本語学習を再開したい、あるいは、身につけた日本語をブラッシュアップして実用に耐えるものになりたいというニーズがある可能性が高い。発達の目覚ましいインターネットを利用して、都合のよい時間に日本語や日本についての情報を摂取し、実践に役立つ学習を進めることのできる環境が提供されれば、世界における日本語学習人口はさらに増大し、日本に関心を持つ人々の数もますます高まっていくものと予想される。

インターネット上には、現在でも日本語学習機会を提供するさまざまなサイトや教材

が数多く存在するが、独力で日本語を学ぼうとする場合、自由に利用できる良質の教材は、まだそれほど多くない。

これまで提供されていないタイプの教材を開発すると同時に、教材提供の方法についても工夫をする必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は、(1) ウェブ上に構築する学習支援システムによって、日本語を母語としない学習者に、自力では入手しにくいけれども日本語使用には不可欠な語用論的知識および社会文化的情報を踏まえた日本語学習教材を提供し、(2) 基礎的な言語知識を身につけた初級後半から中級以降の学習者を対象に、文字・音声・画像・映像等の多様な媒体・多様なレベルで豊富な教材を提供することにより、日本語運用力を引き上げ、(3) そして究極的には、世界における実践力のある日本語の遣い手の数と割合を拡大することを目的としている。

通常、教材には提示されない否定的な語用論的転移である「不適切な実現例」も用意しながら、映像利用と読解によるインプット活動とコミュニケーション教材によるアウトプット活動を展開する、オンラインとオフラインの2つのモードを組み合わせるなど、ダイナミックな日本語学習支援システムの構築を目指す。

## 3. 研究の方法

本研究は期間を3年と設定したので、調査研究活動と、学習支援システム開発の活動を同時平行で進めた。

調査研究としては、日本語を母語としない学習者にとって、自力では入手しにくいけれども日本語使用には不可欠な、語用論的知識および社会文化的情報を提供するため、映画などを利用しながら、語用論的な側面を意識した学習項目を収集する活動を行う。これは、たとえば、韓国語ではある種の一人称代名詞を用いることによって、謙遜な態度を表わすことができるが、日本語においては「私ども」というへりくだった形式であっても、多用すると強く主張していると受け取られる、といった事例の収集を指す。こうした気づきにくかったり、理解しにくかったりする事例を収集するために、対照研究として実施されている先行研究を利用するとともに、映画を学習者に視聴させ、違和感を持った言語行動についてのディスカッションを行う。また、これに平行して、企業で働く学習者（元学習者も含む）に対して質問紙調査を行い、日々の仕事で出会った問題事例を収集する。

システム開発では、1つは、ここ数年、養

成のニーズが高まっているシステムエンジニア（SE）をターゲットとして、実際のSEと顧客とのやりとりをデータとして、顧客対応に関する学習教材を開発する。この中には望ましい対応だけでなく、「不適切な事例」についても組み込んでみて、それが注意喚起として機能するかどうかを探る。また、この教材開発においては、映像媒体と文字媒体、オンラインとオフラインの統合や、ウェブ教材とメールやテレビ会議の組み合わせなど、多層的・多層的なアプローチを組み込んで、学習者からの評価を得る。

これに加えて、対象をSEに限らず、汎用性の高いビジネス関連の教材も作成する。

## 4. 研究成果

職場での日本語コミュニケーションの問題点調査については、タイで日本語を用いて仕事をしているタイ人インフォーマントを得て予備調査を行い、質問紙を改訂するところまで実施したが、本調査実施直前に、類似の調査結果が海外技術者研修協会（AOTS）よりリリースされたため、本調査の実施は見送ることにした。

本研究グループの予備調査でも、AOTSの調査でも、職場では日本語使用において、社会言語的側面が問題であると意識されていることがわかったので、この点を踏まえて、汎用性の高いビジネス用日本語教材として、電話会話組み立て練習を作成した。

SEを対象とする教材開発では、3種類の形態を採用した。

1つめは、教材提示と練習問題から成る一般的なウェブ教材である。これには、「不適切な対応」について学ぶレッスンを充てた。

2つめの形態は、教材提示と練習問題に加えて、遠隔学習で学ぶ学習者の参加意識を高めるため、授業場面ビデオを教材に組み込み、ピアとしての立場から他の学習者のパフォーマンスを見る機会を備えたものである。テレビ放送による語学学習番組のようなデザインであるが、学習者の参加感を高めるために、学習者視線で授業場面ビデオを見る形に切り替える機能を持たせたので、ウェブ教材内の教師から話しかけられているような雰囲気を感じることができる。また、さらなる参加を求めて、メールによる課題提出タスクも加えている。

3つめは、授業場面ビデオで視聴したタスク活動に倣って、テレビ会議システムを利用した学習者間の活動タスクを設定しており、遠隔地で一人で学習している場合でも、コーディネータの手助けを得たり、メール等で直接アポイントをとったりして、別の遠隔地にいる学習者と、テレビ会議システムを利用してロールプレイなどのタスクを実行す

る、という仕組みである。

このSE対象の教材は、オープンアクセスシステムではなく、アカウント配布を必要とする閉じたシステムで稼働しているが、それは、テレビ会議システムの利用のためにアカウントが必要である、という理由だけでなく、マッチングに支援が必要とされる可能性が高いと予測してのことである。

この3種の形態の評価については、開発時期の問題もあって、3種を横断的に同一の利用者が評価する、という形でのデータ収集は、まだできていないのだが、3つの形態それぞれについては、どれも学習者からは、よい評価を得ている。中でも、テレビ会議の利用はかなり喜ばれ、1度試用したのちに、学習者から別の日程でまた利用したい、という希望が出て、アポイントメントを再設定して2度インタラクションが行われた。しかし、相手の顔を見ながら、相互に質問し合うような活動はすぐに活発に行うが、ウェブ教材の中に埋め込まれたロールプレイトスクの実施にはなかなか繋がらず、コーディネータがタスクの実施を促さなければ実行されないという問題が見られた。テレビ会議の新奇性が薄ければ、この問題は解決するのではないかと推測しているが、3種の横断評価とともに、この点も残された課題と言える。

全体として、教材評価の結果は良好であったが、学習者の性別とIT技術の度合いが評価結果に影響を与えることが判明した。また、個別の聞き取り調査からは、コースウェアへの背景音楽の導入を求める声が少ないことや、学習者の文化背景によって、画面デザインにおける色使いの好みなどが大きく異なることがわかり、一様の呈示で多様なレベル・文化背景の学習者を引き付けることは容易な課題ではないことが浮き彫りになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

①高橋亜紀子、才田いずみ、小河原義朗、井口寧、システムエンジニアを対象とした遠隔日本語学習コースウェアの開発、日本教育工学会研究会報告集 08-5、215-220、2008、無

②SAITA, Izumi, Takahashi, Akiko, Ogawara, Yoshiro, Inoguchi, Yasushi, Kurihara, Michiyo、Multimedia and Learner Awareness-raising in regard to Japanese Prosody、CLaSIC2008、481-486、2008、有

③加藤 由香里、e-Learning読解コンテンツの構成手法の調査—評価アンケートとインタビューの分析から—、2006年度日本語教育

学会秋季大会予稿集、75-80、2006、有

④Inoguchi, Yasushi, Takahashi, Akiko, Ogawara, Yoshiro, Saita, Izumi、Evaluation on Interactive e-Learning Japanese Courseware for System Engineers、CLaSIC2006、360-368、2006、有

[学会発表] (計 11 件)

①SAITA, Izumi, Takahashi, Akiko, Ogawara, Yoshiro, Inoguchi, Yasushi, Kurihara, Michiyo、Multimedia and Learner Awareness-raising in regard to Japanese Prosody、CLaSIC2008、2008. 12. 5、National University of Singapore.

②加藤由香里、才田いずみ、上級日本語読解コンテンツの開発—専門教育との連携を志向するeラーニング、第23回日本教育工学会大会、2007. 9. 24、早稲田大学

③才田いずみ、遠隔日本語学習とテレビ会議、CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings、67-70、2007. 8. 3

④才田いずみ、ウェブ利用のe-Learning教材とその活用促進策、第15回オーストラリア日本研究学会大会、2007. 7. 2、キャンベラ、オーストラリア国立大学

⑤Izumi SAITA、Recent Trends in Material Development for Japanese Language Learning、Second International Language Learning Conference (ILLC) 2006、2006. 11. 25、Penang, Malaysia\_

⑥Izumi SAITA、Does Multimedia really work well?、Multimedia Adventures in Language Learning、2006. 8. 22、Sunway Lagoon Resort Hotel, Malaysia

⑦Akiko Takahashi, Yasushi Inoguchi, Yoshiro Ogawara, Izumi Saita、Interactive e-Learning Courseware for System Engineers、Multimedia Adventures in Language Learning、2006. 8. 22、Sunway Lagoon Resort Hotel, Malaysia

[その他]

試行サイト URL

<http://www.npo-jelc.org/page6.html>

(研究成果の一部は上記サイトにあり。ただし、デモ版以外のアクセスにはアカウントが必要)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

才田 いずみ (SAITA IZUMI)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：20186919

### (2) 研究分担者

名嶋 義直 (NAJIMA YOSHINAO)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：60359552

呉 正培 (OH JEONG-BAE)  
東北大学・大学院文学研究科・助教  
研究者番号：60510568

(3)連携研究者

井口 寧 (INOUCHI YASUSHI)  
北陸先端科学技術大学院大学・情報科学セ  
ンター・准教授

研究者番号：90293406  
高橋 亜紀子 (TAKAHASHI AKIKO)  
宮城教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：10333767

小河原 義朗 (OGAWARA YOSHIRO)  
北海道大学・留学生センター・准教授  
研究者番号：70302065

吉村 弓子 (YOSHIMURA YUMIKO)  
豊橋技術科学大学・留学生センター・准教  
授

研究者番号：40183123  
加藤 由香里 (KATO YUKARI)  
東京農工大学・大学教育センター・准教授  
研究者番号：90376848

河合 和久 (KAWAI KAZUHISA)  
豊橋技術科学大学・工学部・准教授  
研究者番号：10186041

宮副ウォン 裕子 (MIYAZOE-WONG YUKO)  
桜美林大学・大学院国際学研究科・教授  
研究者番号：90424093

栗原 通世 (KURIHARA MICHIO)  
国土館大学・21世紀アジア学部・講師  
研究者番号：40431481